

ブラジル：何でもそろっ、文化のパッチワーク

(本稿は英語でのご寄稿を事務局で翻訳したものです)

豊田通商ブラジル

アニー・チュエ (Anny Chueh)



ブラジルの国土は日本の22.5倍

南米最大の国ブラジルは、面積が約850万km²で、日本の22.5倍の大きさがあります。南北の距離が4,400kmと世界で最も縦長の国でもあり、赤道と南回帰線に挟まれているため、気候、生態系、地形、文化が実に多様です。東西にも幅広いブラジルでは時間帯も四つに分かれています。これほどの大きさがありながら、人口は約2億1,100万人(2019年データ)と、日本の人口の1.7倍ほどです。首都は国の中央部に位置するブラジリアですが、人口が最も多い国内最大の都市は、南東部に位置するサンパウロです。

ブラジルには歴史的にさまざまな先住民族が暮らしていましたが、1500年にポルトガルの植民地となり、それから約300年後の1822年にポルトガルから独立しました。大陸国家ではありますが、私たちはみな同じ言語、ポルトガル語を話します。ポルトガル語は、この国を開拓してきた人たちから受け継いだ最大の特徴でもあります。

日本国外で最大の日系人社会があるブラジル

ブラジルにやってきた移民はポルトガル人だけではなく。イタリア人、スペイン人、ドイツ人、ポーランド人、レバノン人(ブラジルのレバノン系移民の数はレバノン国内

のレバノン人よりも多いのです)、シリア人、ウクライナ人、ユダヤ人、そして実は日本人も、ブラジルに移民としてやってきているのです。

ブラジルには日本国外で最大の日系人社会があります。日本からブラジルへの移住は1908年、サンパウロ州とパラナ州のコーヒー農園で働く労働力を求めていたブラジルと、



【ブラジル連邦共和国：基礎データ】

面積	851.2万km ² (日本の22.5倍)
人口	2億1,105万人(2019年)
首都	ブラジリア
言語	ポルトガル語
元首	ジャイル・メシアス・ボルソナーロ大統領
GDP(名目)	1兆8,850億ドル(2018年、世界銀行)

人口の増加が社会問題化し、対策の必要に迫られていた日本の意向とが合致したことにより始まりました。その結果、今では約150万人の日系人がブラジルに住んでいます。

ブラジルでは、アジア人を見ると中国人ではなく、まず日本人を想像します。そんな欧米の国は、恐らくブラジルだけでしょう。

さまざまな文化のパッチワーク

このような地理的・歴史的背景から、ブラジルは世界でも有数の多文化・多民族国家といわれています。この「パッチワーク」こそが、ブラジル文化の特徴といえます。

例えば欧州の影響は食事や音楽、文学に見られ、先住民の影響は食習慣やトゥピ・グアラニー語に由来する言葉に見られます。そして、アフリカの影響は宗教や料理にも見られます。

日本で感じたおもてなし、正確さ、清潔さ、そして安全さ

2015年から豊田通商で働いている私は、駐在員として日本で1年半過ごす機会がありました。日本では多くのことを学び、そのおかげで異文化に好奇心を持ち、異文化を受け入れる姿勢を持つことができました。

日本で最も印象的だったのは、おもてなしの心、正確、清潔、そして安全です。日本はいつ、どんな場面においても卓越さと完璧さを追求しているように感じました。

「おもてなし」とは、その人にとって必要なものを（必要であることすら気付いていないものまで）先回りして提供する、最高の顧客サービスのように思います。日本では遅刻は許されませんが、電車や地下鉄が時間通りにくるため、遅刻もせず計画的に行動するこ

とができます。街中でゴミ箱を見掛けることはありませんが、それでも道は美しく保たれています。そして日本の治安の良さのおかげで、強盗に遭う心配もなく、いつでも安心して街を歩くことができます。

日本人駐在員が感じたブラジルの最も印象的な点

逆に日本人の目にブラジルはどう映っているのか、私は出張や駐在でブラジルを訪れたことがある日本人の同僚に、ブラジルで最も印象深かったことを聞いてみました。そのうちの上位の回答をご紹介します。

1. 料理

彼らが口をそろえて言ったのは、ブラジルで最も思い出に残っているのはブラジル料理、ということでした。

最も人気があったのは「フェイジョアーダ」です。黒豆（フェイジョン）と豚・牛のいろいろな部位を煮込んだ濃厚なシチューで、ライス、ファロファ（キャッサバ粉）、キャベツのソテー、ポークチョップ、揚げたバナナ、オレンジのスライスが添えられるのが一般的です。サンパウロでは、水曜日と土曜日にフェイジョアーダを食べる習慣があります（そしてその後はゆっくりお昼寝です）。塩味の黒豆料理と聞いて、ちょっとびっくりしましたか？ ブラジル人も初めて甘い小豆を口にする時は同じように感じます。ぜひ一度試してみてください。決して後悔はさせません！

もう一つの人気料理は、長い串に刺した肉を炭火で焼く「シュラスコ」です。シュラスコを出すステーキハウス（「シュラスカリア」といいます）では、ウェーターが串刺しの肉を客の目の前で切り分けてくれます。シュラスコは家庭でも楽しめます。多くの家には「シュラスケイラ」という専用のグリルがあ



自家製のシュラスコ
(Homemade Churrasco)



相性抜群のフェイジョアードとカイピリーニャ
(Feijoada and Caipirinha)

り、シュラスコを食べる時は家族や友人が大勢集まってテーブルを囲みます。

他にも印象に残った料理として同僚が挙げたのは、「モケカ」(魚とタマネギ、ピーマンなどの野菜を煮込んだ料理。ライスと一緒に食べます)、「パステル」(屋台で売られてい

るブラジル風の大きな揚げギョーザ)、「コシーニャ」(ほぐした鶏肉を衣で包み、油で揚げたブラジル風コロッケ。スナックとして食べます)、「ピッカーニャ・ナ・シャッパ」(牛のイチボの鉄板焼き。バーで出されます)、「カイピリーニャ」(サトウキビの絞り汁を発酵させた蒸留酒、砂糖、細かく切ったフルーツを混ぜ合わせたカクテルで、シュラスコやフェイジョアードとの相性も抜群)でした。

同僚たちの食体験をもう少し掘り下げてみると、良い思い出は料理そのものだけでなく、その料理を食べている時にも関係していることが分かりました。それが次の項目へとつながります。

2. 社交性

ブラジル人の多くはとても社交的・フレンドリーで、パーティーやお祝いの機会を大切にします。ランチやディナー、コーヒータイムは、おしゃべりをしたり、友達をつくったり、笑い合ったりするための時間です。金曜夜の同僚との飲み会は、気軽に会話を楽しむ場であって、仕事上の付き合いとは違います。同僚が友人になることもあれば、友人の友人とすぐに意気投合することもあります。おいしい料理やお酒と相まって素晴らしい思い出になったと、同僚たちは特に話していました。



とても社交的で友人とのつながりを大切にするブラジル人
(Brazilians are very social, gathering with friends of friends)



ストリート・カーニバル
(Street Carnival)

ブラジル人の社交性については、ブラジル最大のパーティー、リオのカーニバルも話題に上りました。4日間にわたるカーニバルではパレードやパーティーがあり、期間中は休日になります。最近ではカーニバルシーズンが1ヵ月にも及び、カーニバルの前後でさまざまなイベントが国内各地で開かれます。

3. 多様性

ブラジルは、所得階層、性的指向、民族、文化、宗教など、多様性にあふれた国です。こうした多様性は他の国、特に日本とは比べものにならないとのこと。ブラジルでは多様性の考え方が身の回りのあらゆることに根付いています。そのおかげで、尊重すること、寛容になることを自然と学びます。

多様性は人を賢くします。異なる背景を持つ人たちが周りにいると、より勤勉に、より創造的に、より共感的になります。何か決め事をするときでも、相手の話をよく聞き、自分の意見もしっかり説明できなくてははいけません。

4. 気持ちのゆとりを大切に

日本人の同僚は、概してブラジル人は楽観的で、人生を楽しみたい、楽しく過ごしたいという気持ちや願望が日本人よりずっと強いと感じたそうです。成果や競争よりも、生活

の質や家族を大事にする。どちらが良い悪いという問題ではありませんが、ブラジルの文化では、余暇やつかの間の楽しみの方に価値を感じているようです。

5. サンパウロ

ブラジル最大の都市サンパウロは、国内で最も人口の多い都市で、ブラジル経済の12%を担っています。欧州、アジア、アフリカ、そしてブラジルの他の州の影響が色濃く感じられる、多文化都市です。

同僚たちは、おいしいレストランやバー、ショッピングセンター、美術館、文化施設、緑豊かな公園など、世界の大都市にも引けを取らない充実ぶりに感心していました。例えば世界のいろいろな料理を思い浮かべてみてください。サンパウロならきっと全てを食べることができます。

市内から車で数時間も走ればビーチや山があり、田舎に行けばゆっくり過ごせるホテルがあります。サンパウロは海外駐在員にとって、とても暮らしやすい都市なのです。

さらに日本からの駐在員には耳寄りな情報があります。サンパウロには「リベルダーデ」（「自由」の意）と呼ばれる日本人街があり、そこでは伝統的な和食も食べられます。これでホームシックの心配もありません。

つまり、サンパウロには全てがそろっているのです！

ここでご紹介したのは、ブラジルで体験できることのほんの一部です。ぜひブラジルにいらして、ご自身で体験、体感してみてください。もちろん、ブラジルにも他の国と同じように欠点もたくさんあります。でもブラジル人の幸せそうな姿にきっと皆さんも心動かされるはずです。



Brazil: a patchwork of cultures that has it all!

(原文)

Anny Chueh (Toyota Tsusho-Brazil)

Brazil has 22.5 times the size of Japan

Brazil is the largest country in South America, with a total area of 8.5 million square kilometers, which is equivalent to 22.5 times the size of Japan. It is also the longest country of the world when measured from north to south (4.4 thousand kilometers), having both the Earth's Equator and the Tropic of Capricorn cutting it, resulting in a vast variety of climate, biodiversity, topography, and cultures. Nonetheless, from east to west, the country comprises four different time zones. Even with its size, our population is only 67% bigger than Japan, with around 211 million inhabitants (2019 data). Our federal capital is Brasília, located in the middle of the country, although the largest and most populated city is São Paulo, in the Southeast region.

Our country was historically inhabited by various indigenous tribes and then colonized by Portugal back in 1500, from who we got independent in 1822. Although it is a continental country, we all speak one same language: Portuguese, the largest trait inherited from our settlers.

Brazil hosts the largest Japanese population outside Japan

Throughout our history, the main immigrants were not only Portuguese,

but also Italian, Spanish, German, Poles, Lebanese (there are more Lebanese in Brazil than in Lebanon), Syrians, Ukrainians, Jews, and... guess what? Japanese!

Today Brazil hosts the largest Japanese population outside Japan. The immigration from Japan was induced by common interests of both countries back in 1908: Brazil needed labor force to work for coffee farms in São Paulo and Paraná State areas, while Japan needed to relieve social tension in the country caused by the high population. As a result, until today we have an estimated population of 1.5 million “Nikkei” living in Brazil.

Brazil is probably the only western country where when someone sees an Asian, they will guess if the person is Japanese first, not Chinese.

A “patchwork” of cultures

With such geographic dimension and historical background, it is said that Brazil is one of the most multicultural and ethnically diverse countries in the world. This “patchwork” is what defines our Brazilian culture.

For example, we have European influence in our food, music and literature; indigenous influence on eating habits and some ‘tupi-guarani’ language words; and African

influence on religious activities and food.

Japan's Omotenashi, Precision, Cleanliness and Safety

Working for Toyota Tsusho since 2015, I had the opportunity to spend a year and a half in Japan as an expatriate, which taught me a lot and made me curious and open-minded to learn about different cultures.

When I was living there, the most impressive things for me in Japan were: the hospitality (omotenashi), the precision, the cleanliness and the safety. It feels that Japan is constantly driving for excellence and perfection.

Omotenashi appears as the best customer service, where your needs (or even what you don't know you need) are anticipated. Delays are not acceptable, but trains and subways schedules are so precise that you can plan with predictability. Streets are clean, although you never see a trash dump outside. And safety: the feeling that you will not be robbed walking in the streets at anytime of the day is so comforting.

Most impressive things in Brazil for expatriates

To also learn about the perspective of Japanese people in Brazil, I asked some of the colleagues coming from Japan, whether for visiting or to live as expatriates, which were the things they were most impressed with during their stay in the country and here are the top answers which I am pleased to share with you:

#1 : FOOD

My Japanese colleagues were unanimous in saying that Brazilian food is what they miss the most about Brazil.

"Feijoada" is the most popular Brazilian dish, which is basically a rich stew made of black beans ("feijão"), pork and beef parts, usually served with white rice, "farofa" (cassava flour), braised cabbage, pork chop, fried banana and a slice of orange. In São Paulo, it is a traditional dish for Wednesdays and Saturdays (after which you can enjoy a good nap). Does a salty dish with black beans sound strange to you? It's the same strange feeling Brazilians have when they try "azuki" for the first time. Just try it - I guarantee you will not regret!

Another popular dish is "churrasco", where raw meat is roasted over fire or embers, using stakes or grills. It can be served at a steakhouse (called "churrascarias"), where the servers cut the meat over the customer's plate directly, or homemade (many Brazilians have their own grill "churrasqueira" at home) with a table filled with family and friends.

Other 'top of the mind' dishes mentioned were "moqueca" (fish stew with onion and peppers, served with white rice), "pastel" (a Brazilian-style large fried gyoza, served as street food), "coxinha" (deep fried dough snack, filled with shredded chicken meat), "picanha na chapa" (sirloin cap, grilled on plate, served on bars) and "caipirinha" (drink made of fermented sugarcane alcohol, sugar and crushed fruits - perfect combination with "churrasco" or "feijoada").

Digging a bit deeper on their food experiences, I realized that the good memories are not only related to the food itself, but also to the eating moments, which brings us to next item.

#2 : SOCIAL RELATIONSHIPS

Most Brazilians are very social and friendly



and appreciate good opportunities to party and celebrate. A lunch, dinner, or just a coffee break is a moment for a good chat, to make friends, for good laughs. A Friday night “nomikai” with co-workers is a space for casual conversations, not a working appointment. Colleagues can become friends, and a friend of your friend becomes your friend in a flash. They highlighted having amazing memories of these moments, paired with good food and drinks.

Also on this topic, Carnaval - the largest popular party of Brazil - was also mentioned by my colleagues. Officially a 4-days holiday with parades and parties, it has nowadays become a month-long celebration, with pre and post Carnaval events all over the country.

#3 : DIVERSITY

Brazil is a naturally diverse country: income ranges, sexual orientation, ethnicity, cultures, religions, etc. The range of diversity is incomparable with any other country, especially with Japan. Having this diversity rooted in everything around you enforces you to learn to be more respectful and tolerant.

Thus, diversity makes us smarter: being surrounded by people with different backgrounds forces us to be more diligent, more creative and more empathetic, as you need to listen more and explain better your viewpoint before reaching any agreement.

#4 : CHERISHING INDULGENCE

They mentioned the perception that Brazilians seem to be optimistic, in general, and with the willingness to realize their impulses and desires on enjoying life and having fun, much more compared to

Japanese. Quality of life and family is valued over achievements and competition. There is no right nor wrong, but leisure time and short-term pleasure seem to have more value in Brazilian culture.

#5 : SÃO PAULO

São Paulo, the largest and most populated city in Brazil, represents 12% of Brazilian economy. It is a multicultural city, with influences from Europe, Asia, Africa and also from other Brazilian states.

Most Japanese colleagues were impressed by the variety of things that can be found in the city, such as good restaurants and bars, shopping centers, art museums, cultural activities, green outdoor spaces, etc., which are comparable to large metropolitan cities around the world. Think of any cuisine from the world, and I’m sure you will find in São Paulo.

Moreover, after a couple of hours driving from São Paulo, you will be able to reach the beach or the mountains, or even a calm countryside hotel to rest. All this makes São Paulo a very easy-to-live city for expatriates.

Extra bonus for Japanese expats: São Paulo has its own Japanese town, called “Liberdade” (meaning freedom) where you can kill the homesickness eating traditional Japanese food.

São Paulo has it all!

This is just a glimpse of what you can find here in Brazil, and I invite you to have your own experience and see the nuances by yourself. Our country has many flaws - as any place in the world - but you will surely be touched by the joy of the Brazilian people!